

果樹の耕種的・物理的防除技術一覧

山形県病害虫防除基準を参考

共通

園地の角などの薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬剤が隅々まで到達しやすいようにする。密植園は間伐し、日当たり、風通し、作業性を良くする。

- ・シンクイムシ類：被害果は1週間以上水付けするか、土中に埋めて処分する。ナシヒメシンクイの芯折れ枝は見つけ次第基部からせん除し土中に埋める。
- ・ハダニ類：休眠期に粗皮削りをする。ナミハダニは5月下旬以降、草刈りを徹底する。
- ・コウモリガ：幼木では特に幹周辺をきれいにしておく。
- ・カイガラムシ類：休眠期に粗皮削り、金ブラシ掛け、高圧水洗浄や生育期の捕殺を行う。
- ・キクイムシ：樹勢を弱らせない。枝の枯れこみ、ホゾは切除する。

りんご、西洋なし

- ・赤星病：栽培地周辺には「かいずかいぶき」等のびやくしん類を植栽しない。
- ・炭そ病：周辺に寄生植物のニセアカシアやシナノグルミがあると、伝染源になるので植栽しない。
- ・輪紋病：休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、埋設処分する。
- ・胴枯病：凍寒害、野そ害、移植植え痛み等での樹勢低下で発病しやすい。樹勢は強めに保ち、ほぞ残し剪定でも胴枯れの侵入門戸となるので、枝は基部から切り落とす。

りんご

- ・腐らん病：別紙参照 (p.12)
- ・黒星病：別紙参照 (p.12)
- ・うどんこ病：発病した新梢や花そうは摘み取り埋設する。
- ・モニリア病：発病した花、葉、花そう、幼果は摘み取り埋設する。
- ・斑点落葉病：梅雨時頃から余分な徒長枝を切除する。
- ・リンゴワタムシ：被害枝の切除、粗皮削りを行い、除去した枝や粗皮は埋設する。

西洋なし

- ・ハマキムシ類：被害葉の摘み取り、捕殺を行う。
- ・黒斑細菌病：前年発生が見られた園では、1輪摘果を行わず花巣摘果を行ない、5月下旬以降予備摘果を行なうとともに、感染が終息する梅雨明け後に仕上げ摘果を行なう。又、感染した枝、果実は、徹底して切除し処分する。
- ・胴枯病：別紙参照 (p.13)

ぶどう

- ・晩腐病：施設栽培にし6月中旬までに被覆する。露地栽培では5月下旬までに枝かけ具を設置するとともに6月中旬までにカサかけを行う。発病果は見つけ次第摘み取る。休眠期に房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部分を切除する。
- ・黒とう病：施設栽培にし発芽までに被覆する。休眠期に房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部分を切除する。発芽までに枝かけ具を設置する。
- ・褐斑病：休眠期に落葉処理、粗皮削りを行う。
- ・灰色かび病：施設栽培では多湿にしない。谷間の果房には落花直後までにカサかけを行う。
- ・トラカミキリ：剪定枝は5月下旬までに埋設か焼却する。見つけ次第捕殺する。
- ・マメコガネムシ：7月下旬～8月中旬にポリ容器等へ捕殺する。

おうとう、もも、すもも

- ・灰星病：被害花、被害果、被害葉は摘除して埋設する。開花期前後園地が過湿にならないようにする。樹冠下は清耕栽培とする。
- ・コスカシバ：食入したところから虫ふんヤニが出ているので、見つけ次第針金等で捕殺するか、木槌、金槌でたたいて圧殺する。

もも

- ・せん孔細菌病：別紙参照 (p.13)

おうとう

- ・炭そ病：枯死枝や被害果は摘除し埋設処分する。
- ・黒かび病：収穫が遅れないようにする。
- ・樹脂細菌病：別紙参照 (p.14)
- ・ショウジョウバエ：被害果は放置しないで地中に埋設する。収穫が遅れるほど被害が増える。果実の取り残しをしない。

すもも

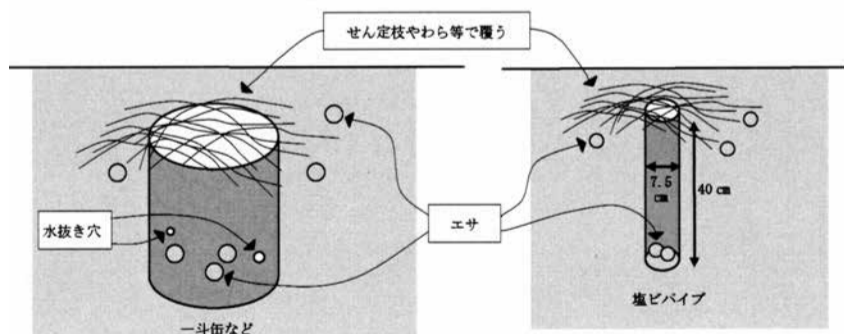
- ・ふくろみ病：被害果は見つけ次第摘み取り埋設する。

雑草防除：樹冠下を浅く中耕する。全面耕耘でなく樹冠下とし、他は草生草刈する。

野 ぞ の 駆 除

以下の諸対策を併用すると効果が高いので総合的に実施する

(県病害虫防除基準から引用)

時 期	方 法	注 意 事 項																																																				
秋 季 (根 雪 前) 春 季 夏 季	1. 野ネズミが侵入・定着しないよう、圃場や周辺の清掃や隠れ場所となるような資材の撤去を行う。また、野ネズミの増殖を抑制するため、圃場内に餌となる作物残渣を残さない。 2. 水田、畑地、果樹園、桑園は下記の薬剤により防除する。 3. 殺そ剤を使用する場合は、確実にネズミ穴に投入する。 (1) ダイファシン系剤 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th colspan="2">ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">ヤソヂオン (小袋) (劇)</td> <td style="text-align: center;">5g袋</td> <td style="text-align: center;">40~60包/10a</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">10g袋</td> <td style="text-align: center;">20~30包/10a</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(200~300g/10a)</p> (2) リン化亜鉛剤 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th>ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Z・P (劇)</td> <td>30~500g/10a</td> </tr> <tr> <td>強力ラテミン (3%粒剤) (劇)</td> <td>1~2g (15~30粒) /穴</td> </tr> <tr> <td>メリーネコ1号 (劇)</td> <td>5~10粒/穴</td> </tr> <tr> <td>ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)</td> <td>15~30包/10a (30~60g/10a)</td> </tr> </tbody> </table> (3) クマリン系剤 (毒餌法) 穀類、果実、いも類等の固形物を材料 (餌) として、粉末ラテミンを粉衣したもの (毒餌) を直接又は防水紙に包んでネズミ穴に投入する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬 剤 名</th> <th>ネズミ穴投入量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粉末ラテミン</td> <td>調製した毒餌250~750g/10a</td> </tr> </tbody> </table> ○具体的な調製事例 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">毒餌となる固形物</th> <th rowspan="2">薬 量 (目安)</th> <th rowspan="2">調 製 方 法</th> </tr> <tr> <th>材料</th> <th>食用油</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>粃 2kg</td> <td>50~100ml</td> <td>500g</td> <td rowspan="3">1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。</td> </tr> <tr> <td>大豆 2kg</td> <td>50~100ml</td> <td>250~300g</td> </tr> <tr> <td>麦 2kg</td> <td>100ml</td> <td>400~500g</td> </tr> <tr> <td>りんご 2kg</td> <td>—</td> <td>250~300g</td> <td>1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。</td> </tr> </tbody> </table> 〈注意事項〉 1. 毒餌の材料は、その地域や畑で野ネズミに好まれるものを選ぶ。 2. 食用油を添加すると材料と薬剤がなじみやすくなるとともに、野ネズミの毒餌に対する食いつきが良くなる。 3. りんご等の水分を含む材料を毒餌とする場合は、食用油を添加すると「ダマ」になり薬剤が均一に混ざらなくなるため使用しない。 4. 殺そ剤以外による駆除 (1) ネズミ捕り器による駆除 (2) 周年駆除法 10aあたり5~6カ所に、一斗缶や、塩ビパイプ等を上部1~2センチ残して地中に埋め、上部の穴をせん定枝やわらで広く覆い、時々捕殺を確認する。下図参照。  5. 忌避剤による防除 (殺そ剤やネズミ捕り器と併用する) 根雪直前に幹周り半径約50cm範囲の落葉や雑草を取除き、下記の剤を均一に散粒し、レーキ等で表土と混和した後、鎮圧する。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">作物名</th> <th style="width: 15%;">薬剤名</th> <th style="width: 15%;">使用量</th> <th style="width: 15%;">使用時期</th> <th style="width: 15%;">使用回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>りんご おうとう</td> <td>フジワン粒剤</td> <td>200g/樹</td> <td>根雪前</td> <td>2回以内</td> </tr> </tbody> </table> 6. ハウス内作物の野ネズミ対策 (1) 野ネズミが侵入・定着しないよう、ハウス内には隠れ場所となるような資材を置かない。 (2) ハウスの外縁部は内側、外側とも踏み固めておく。 (3) 野ネズミが侵入した場合は、ネズミ穴や通路 (作物残渣を引き込んだり、フンが見られる場所) に金網製の「ネズミ捕り器」や「粘着板」を置いて捕殺する。 野ネズミは暗い場所に落ち着き、壁などに沿って移動する習性があるため、捕獲器は、壁面に肥料袋などで覆って置く。捕獲器の設置後数日は捕獲器周辺に餌をまいて捕獲器への警戒心を与えないように配慮する。 発生が多い場所では、周年設置して被害を防ぐことと、ハウス周辺の環境をきれいにし同時に防除対策も行う。	薬 剤 名	ネズミ穴投入量		ヤソヂオン (小袋) (劇)	5g袋	40~60包/10a	10g袋	20~30包/10a	薬 剤 名	ネズミ穴投入量	Z・P (劇)	30~500g/10a	強力ラテミン (3%粒剤) (劇)	1~2g (15~30粒) /穴	メリーネコ1号 (劇)	5~10粒/穴	ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)	15~30包/10a (30~60g/10a)	薬 剤 名	ネズミ穴投入量	粉末ラテミン	調製した毒餌250~750g/10a	毒餌となる固形物		薬 量 (目安)	調 製 方 法	材料	食用油	粃 2kg	50~100ml	500g	1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。	大豆 2kg	50~100ml	250~300g	麦 2kg	100ml	400~500g	りんご 2kg	—	250~300g	1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。	作物名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数	りんご おうとう	フジワン粒剤	200g/樹	根雪前	2回以内	1. 天敵保護に留意する。 2. リン化亜鉛剤は急性毒性が強いので、ペットや家畜への二次的な危害を防止するため、家畜施設や住宅地周辺では使用しない。 3. 共同で一斉防除を実施すると効果的である。 4. 繁殖期前の春季と収穫後越冬準備期前の秋季の年2回防除を実施すると効果が高い。 5. 野ネズミは、たばこ、化粧、香水など人工的な臭いを強く警戒するため、毒餌調製時や薬剤投入時の取扱いの際には十分注意を払うとともに、必ず手袋を着用する。 6. 薬剤の投下量及び防除回数は、農薬使用基準の範囲内で野ネズミの生息数に応じて調節する。 7. 降雨が多い時期は、小袋の使用が効果的である。 8. 果樹園、桑園では、薬剤防除を行った後に樹幹部を金網、フェルト、杉葉等で防護する。
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																					
ヤソヂオン (小袋) (劇)	5g袋	40~60包/10a																																																				
	10g袋	20~30包/10a																																																				
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																					
Z・P (劇)	30~500g/10a																																																					
強力ラテミン (3%粒剤) (劇)	1~2g (15~30粒) /穴																																																					
メリーネコ1号 (劇)	5~10粒/穴																																																					
ラテミンリン化亜鉛1% (小袋)	15~30包/10a (30~60g/10a)																																																					
薬 剤 名	ネズミ穴投入量																																																					
粉末ラテミン	調製した毒餌250~750g/10a																																																					
毒餌となる固形物		薬 量 (目安)	調 製 方 法																																																			
材料	食用油																																																					
粃 2kg	50~100ml	500g	1. ビニール袋等に材料と油を入れ、全体に油がなじむようよく混ぜる。 2. 薬剤を加えてよく混ぜる。																																																			
大豆 2kg	50~100ml	250~300g																																																				
麦 2kg	100ml	400~500g																																																				
りんご 2kg	—	250~300g	1. 材料をネズミ穴に入るような大きさに刻む。 2. ビニール袋等に材料を入れ薬剤を加えてよく混ぜる。																																																			
作物名	薬剤名	使用量	使用時期	使用回数																																																		
りんご おうとう	フジワン粒剤	200g/樹	根雪前	2回以内																																																		

りんごの黒星病対策

地域ぐるみで防除を徹底しよう

1. 耕種的防除

- 早期発見につとめ、被害葉・被害果を摘みとり、焼却または埋没処分を行う。
- 被害落葉は翌年の一次伝染源になるため、収集し、適切に処分する。なお、ブロアー等を利用すると効率的に収集することができる。
- 落葉後から展葉期にかけて、園内の土壌表面に堆肥（1～2t/10a）を散布し（堆肥マルチ）、被害落葉を被覆する。
- 樹間間隔が狭い園地や枝葉の混み合っている園地では日当たりや風通しが悪く、樹冠内部への薬液のかかりも悪いため、縮間伐の実施や薬液の到達性を考慮した剪定を実施する。
- 放任園や育成園では特に発生しやすいので重点的に検診する。発生しやすい品種は王林>ふじ>紅玉である。

2. 薬剤防除によるポイント

- 一次感染時期にあたる展葉期から落花20日後並びに、二次感染時期にあたる病斑が見え始めてから梅雨明け（7月下旬頃）まで重点防除時期となるので、雨前散布を原則とし、散布間隔を10日以上あけない。
- さくらんぼの収穫時期は、散布間隔が長くなりやすいので十分注意する。
- 葉の両面にムラなくかかるように薬液は十分量（400ℓ/10a）散布する。
- 十分に薬液が届くように園地の通風採光を確保する。

りんご腐らん病対策

腐らん病はりんごの「がん」

地域ぐるみによる「腐らん病検診」を行い、早期防除対策を実施しよう。

1. 枝腐らん

発生部位：1～6年生くらいの細い枝、せん定あと、果台（果実収穫痕）枝の先枯れ部および接ぎ木部からの感染が多い。

発生時期：通年発生するが、3月下旬頃から7月にかけて多く発生する。

病徴：初期は淡褐色の小病斑で枝の上下方向に進展する。進展時の病斑は周辺部が「火ぶくれ状」となり、病斑内に暗褐色の輪紋を生じて腐敗する時もある。

診断：発芽～展葉期にかけて、発芽しない枝や発芽後展葉してから葉が萎凋する（しおれる）枝の基部に「火ぶくれ状」の症状がみられる。



2. 洞腐らん

発生部位：主幹や主枝などの太い部分、大枝や発育枝のせん定した痕や分岐部が侵入門戸となる。

病斑進展：冬期間でも拡大するが、4月～6月の進展が大きい。秋口に好適な条件がくると再び進展する。

病徴：侵入門戸を中心に茶褐色の少し窪んだ病斑をつくり、押すと窪み、内部は醜酵臭（アルコール臭）がある。

3. 耕種的防除

- 枝腐らんの剪除、焼却、重傷被害樹の伐採焼却。樹勢を低下させない。大枝の日焼け防止対策を講ずる。

4. 薬剤による防除

春と秋に次の薬剤を用いて防除する。

- 春期休眠期間 剪定時の傷口、洞腐らん患部の削り取り痕にバッチレート（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）またはトップジンMペースト（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）を塗布する。

【発芽直前まで】

- 秋期休眠期間 石灰硫黄合剤10倍（休眠期、2回以内）またはベフラン液剤25の1,000倍（休眠期、6回以内（但し、開花期以降散布は3回以内））に展着剤を加用して散布する。（11月中旬以降りんご収穫後）

【生育期の防除】

- 6月・7月頃 一輪摘果、仕上げ摘果後の果柄（軸）の傷口から侵入感染を防ぐために、ベンレート水和剤3,000倍（収穫前日まで、4回以内）またはトップジンM水和剤1,500倍（収穫前日まで、6回以内）を散布する。その際、枝幹部にも薬剤がかかるように十分散布する。但し、オウトウへ飛散しないように注意する。
- 5月～6月（洞腐らん） 病患部よりやや広範囲に削り取り、トップジンMオイルペースト（剪定時及び病患部削り取り直後、塗布は3回以内）を塗布する。但し、細い枝には使用しない。

5. その他

被害樹の伐採。剪定に使用したハサミ、ノコギリ、チェーンソーは、消毒用アルコール等で殺菌を行い使用する。

りんごの紋羽病対策

(県病害虫防除基準から引用)

		白 紋 羽 病	紫 紋 羽 病
耕種的 防除法	予 防 法	1. 強せん定を避ける 2. 發育枝を利用して樹の若返りを図る。 3. 過度の着果を避ける。 4. 土壤の排水を良くするなど土壤改良や肥培管理に努め、樹勢を衰弱させないようにする。なお、未熟有機物の施用は発病を助長するので、完熟したもの以外は使用しない。 5. 本病の治療は発病の初期でないこと、実際の効果は期待できず、それには早期発見が最も大切なので、わずかな病徴も見逃さないよう、常に園地を見回る必要がある。	
	治 療 法	腐朽している根は切除し、治療可能な根は病患部を削り取る。削り取った病患部は土に混ぜないように、あらかじめ作業前に紙を敷いておく。 下記のいずれかの方法による。	
薬 劑 防 除 法	苗 木 消 毒	植え付け前にベンレート水和剤1,000倍液に10～30分間、またはトップジンM水和剤500倍液に10分間根部を浸漬する。	下記のいずれかの方法による。 リゾレックス水和剤1,000倍液を、病患部を中心に1樹当たり約40ℓ専用注入器を用い分散注入する。(根の掘り上げは不要。)生育期に処理できる(但し、収穫60日前までとする)。 フロンサイドSCの1,000倍1樹当たり100～200ℓまたは500倍を1樹当たり50～100ℓ土壤灌注する(株の堀上は不要)。生育期に処理できる(但し、収穫45日前までとする)。
	果 樹 の 治 療 法		根を掘り起こし、病患部をせん除した後、ステンレス1,000倍液を1樹当たり4～10ℓ土壤灌注する。土を埋め戻す場合は、薬液と掘り上げた土がよく混ざるように注意する。土を埋め戻す際、1樹当たり100～200kgの完熟堆肥か、尿素0.5～1.0kgを入れれば一層有効である。
	被 害 跡 地 の 対 策	(被害樹の跡に植付けする場合) 被害根はもちろん健全な根もていねいに除去し、以下のいずれかの方法により跡地の土壤消毒を行う。	
		1. クロールピクリン 約60cmの深さに耕起、整地し、30cm×30cmごとの深さ30～40cmの位置に5～10mlを注入器を用いて注入し、直ちに覆土し、ポリエチレンで被覆し2～3週間放置する。植付け7～10日前に被覆を外し、ガス抜きを行う(粘質土壌ではガス抜きを2回行う)。なお、降雨の際はガス抜きを行わない。薬剤処理後30日間は薬害の恐れがあるので植付けを避ける。ガス抜きの際は周辺環境に十分注意し、ガスの拡散による危被害を防止する。 2. NCS 約60cmの深さに耕起、整地し、30cm間隔の千鳥状に深さ約15cmの穴をあけて、3～5mlを注入器を用いて注入し、直ちに覆土し、ポリエチレンで被覆し2～3週間放置する。植付け7～10日前に被覆をはずし、ガス抜きを行う(粘質土壌ではガス抜きを2回行う)。なお、降雨の際はガス抜きを行わない。薬剤処理後30日間は薬害の恐れがあるので植付けを避ける。 3. バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 被害樹を抜根した跡地と周辺部を含めて、できるだけ広めに1㎡当たり50～100gを散布し、深さ40cmに土壤と均一に混和する。混和後ビニール等で被覆する。20日後被覆を除去し、植付けは翌春に行う。なお、ガス抜きはていねいに行う。	

桃せん孔細菌病対策

1. 管 理

- (1) 風あたりの強い園では防風ネットを必ず設置する。
- (2) 樹勢が弱いと発生が多くなるので適正な樹勢の維持に努める。
- (3) 発生の多い園では、6月上旬までに袋かけを行う。
- (4) 台風等により早期に落葉した場合は、落葉部位からの感染を防止するため、薬剤防除を徹底する。

2. 早期発見

伝染源となる春型病斑は4月下旬から7月上旬頃まで発生するので、園地を見回り早期発見に努める。なお、発病枝は見つけ次第基部からせん除する。

3. 薬剤防除

- (1) 開花前にICボルドー412 30倍を散布する。
- (2) 落花後(5月上旬)から約10日間隔で2～3回、生育期防除薬剤のいずれかを散布する(下表)。多発園では、更に6月上旬以降2～3回散布する。なお、薬剤選定に当たっては下記に留意する。
 ア. 耐性菌出現防止のため、抗生物質剤は有機殺菌剤と輪用散布する。
 イ. 各薬剤(成分)の総使用回数を厳守する。ストレプトマイシンを含む薬剤の総使用回数は2回以内なので特に注意する。
 ウ. 品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。特にストレプトマイシンを含む薬剤の使用は収穫60日前までとする。
 (せん孔細菌病生育期防除薬剤)

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
抗生物質剤 (*印はストレプトマイシンを含む)	*アグレプト水和剤	1,000	収穫60日前まで	2回以内
	*アグリマイシン-100	1,500	収穫60日前まで	2回以内
	マイコシールド	2,000	収穫21日前まで	5回以内
	バリダシン液剤5	500	収穫7日前まで	4回以内
有機殺菌剤	トレノックスフロアブル	500	収穫7日前まで	5回以内
	デランフロアブル	600	収穫7日前まで	4回以内

ラ・フランス胴枯病対策

1. 耕種的防除

- (1) 萎凋枯死花そうや被害枝を徹底して切り取り焼却し、伝染源を減らす。
- (2) 樹勢を回復させる。

2. 薬剤による防除

- (1) 休眠期(春と秋の2回)に固着性展着剤加用石灰硫黄合剤10倍液を、枝幹部を洗うように散布する。
- (2) 5月上中旬から6月上旬にトップジンM水和剤(収穫前日まで、6回以内)1,500倍を散布する。さらに、6月中旬から7月下旬までは輪紋病と同時防除として4-12式ボルドー液を散布する。
- (3) 生育期の薬剤散布は、枝幹にもかかるように十分量散布する。
- (4) 病患部の削り取り痕や太枝の切り口にトップジンMペースト(塗布は3回以内)、バッチレート(塗布は3回以内)の原液またはペフラン塗布剤3(塗布は2回以内)の3倍液を塗布する。
- (5) 防除は幼木期から徹底する。

おうとう樹脂細菌病

- 症状
- 枝枯れ、芽枯れ及び葉に斑点を生じ、発病が甚だしい場合は樹が枯死する。
 - 枝では、はじめ小さい褐色病斑を生じ、拡大して紡錘形の病斑になり、ヤニを漏出したり病斑部に亀裂を生じる。褐変部直下の皮層は褐変するが、部位の周囲は水浸状になる。
 - 葉では、はじめ黄色ハローを伴う褐色不整形病斑を生じ、後に黒変する。発生は新梢先端葉に多い。
 - 枝での発病は展葉期から7月にかけて進展し、夏季は一時停滞し翌春再進展する。
- 発生要因
- 感染時期は主に冬期間である。
 - 徒長気味に生育した樹や風の強い園地で発生が多い傾向にある。
- 対策
- 充実した苗木を入手する。
 - 排水対策と防風対策を徹底する。
 - 樹脂の漏出は4月下旬頃から見られる。被害部（褐変部位）を削り取り直後トップジンMペースト（塗布は3回以内）又は、バッチレート（塗布は3回以内）を塗布する。
 - 薬剤対策

休眠期	石灰硫黄合剤10倍
(9上中	ICボルドー66 D40倍)
11上～12上落葉後	石灰硫黄合剤10倍（又はICボルドー66D40倍）

おうとうの灰星病等の越冬病害対策

- 休眠期間中の全面耕耘及びミイラ果の除去、埋設を行うとともに、地表面の乾燥をはかる。
- 開花直前に消石灰を10aあたり100kgを均一に散布する。

果樹の苗木消毒

- 果樹の改植や新植において、白紋羽病が発生する恐れがあるため、原則苗木植付前に根部浸漬処理をする。
- りんご、なし、ももの白紋羽病には「トップジンM水和剤」（1回）500倍液に10分間浸漬する。（予防効果のみ）
- りんごの白紋羽病には「ベンレート水和剤」1,000倍液に10～30分間浸漬する。

殺虫剤の対象害虫および効果

- (1) 対象害虫 ◎効果が高い ○効果がある () 作物の適用はある
 (2) 残効（記号は残効期間の目安を示す。） -：短い ○：1週間程度 ◎：10日程度

りんご

(県病害虫防除基準等から引用)

薬 剤 名	希釈倍数	対 象 害 虫										
		モモンクイガ	ハマキムシ類	キンモンホリガ	ギンモンハモグリガ	ケムシ類	シャクトリムシ	モモチョッキリガムシ	クワコナカイガラムシ	アブラムシ類	リンゴワタムシ	カメムシ類 残効(2)
スミチオン水和剤40	800倍	○	○		○				○	○	○	○
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○		○	○		○	○	◎	(○) -
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○					○	○		(○) -
ダズバンDF	3,000倍	◎	◎			◎					○	(○)
スプラサイド水和剤	1,500倍	○	○	(○)	◎	(○)			◎	○	○	○ -
ウララDF	2,000倍									◎	○	
アドマイヤー水和剤	2,000倍			◎	◎					◎		(○) ○
モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	○		◎	◎	○2,000倍			◎	◎	○2,000倍	◎2,000倍 ○
バリアード顆粒水和剤	2,000倍	○		◎4,000倍	◎4,000倍				◎4,000倍	◎4,000倍	○	○ ◎
ダントツ水溶剤	2,000倍	○		◎	◎	○			◎	◎	◎	○ ○
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎				◎	◎		○ ○
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎				◎	◎		○ ○
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	○		◎	◎				◎	◎	○3,000倍	○ ◎
トアロー水和剤CT	1,000倍		○			○						
バイオマックスDF	2,000倍		◎			◎	◎					
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍		◎			○	◎					
デミリン水和剤	4,000倍	◎2,000倍		◎	○	◎						
ノーモルト乳剤	4,000倍	◎2,000倍		◎	○	◎2,000倍	○					
ロムダンフロアブル	1,500倍		◎			◎3,000倍	◎3,000倍					
マトリックフロアブル	1,000倍		○			◎2,000倍	◎2,000倍					
アタブロンSC	3,000倍		◎			○	◎4,000倍					
合成ピレスロイド剤	テルスター水和剤	1,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
	アーデントフロアブル	2,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
	パーマチオン水和剤	1,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
	バイスロイドEW	2,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
	サイハロン水和剤	2,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
	ロディー水和剤	1,000倍	◎	(○)	◎成虫発生期						(○)	◎
MR.ジョーカー水和剤	2,000倍	○	○	○	○						○ ◎	
コテツフロアブル	2,000倍		○	◎	(○)		◎				(○)	
フェニックスフロアブル	4,000倍	○	◎	◎	◎	◎	◎					
サムコルフロアブル10	5,000倍	○	◎	◎	◎	◎	◎					
エクシレルSE	5,000倍	○	◎	◎	◎	◎	◎					
ディアナWDG	1万倍	○	◎	◎	○	◎	◎					

シャクトリムシは若齢幼虫時に防除する。

殺虫剤の対象害虫および効果

(1) 対象害虫 ○効果が高い ○効果がある () 作物の適用はある
 (2) 残効 (記号は残効期間の目安を示す。) - : 短い ○ : 1週間程度 ◎ : 10日程度

(県病害虫防除基準等から引用)

西洋なし

薬剤名	希釈倍数	対象害虫						
		モモンクイガ	ナシヒメシクイ	ハマキムシ類	アブラムシ類	カメムシ類		
						残効(2)		
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○	○	(○)	-	
ダズバンDF	3,000倍	○	○	○		(○)	-	
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○	○	(○)	-	
スミチオン水和剤40	800倍	○	○	○	○	○	-	
スプラサイド水和剤	1,500倍	○	○		○	○	-	
アクタラ顆粒水溶剤	3,000倍	○2,000倍	○2,000倍		◎	○2,000倍	◎	
アドマイヤー水和剤	2,000倍				◎	○1,000倍	○	
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
ダントツ水溶剤	2,000倍	○	○		◎	○	◎	
ベストガード水溶剤	1,000倍				○	○	-	
バリアード顆粒水和剤	2,000倍	○	○		○4,000倍	○	◎	
フェニックスフロアブル	4,000倍	○	○	◎				
バイオマックスDF	2,000倍			◎				
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍			◎				
アタプロンSC	3,000倍			◎				
マトリックフロアブル	1,000倍			○				
ノーモルト乳剤	2,000倍	○	○					
合成ピレスロイド剤	テルスター水和剤	1,000倍	◎	○	○	(○)	(○)	◎
	アーデント水和剤	1,000倍	◎	○		(○)	(○)	◎
	パーマチオン水和剤	1,000倍	◎	○		(○)	(○)	◎
	バイスロイドEW	2,000倍	◎	○	○	(○)		
	サイハロン水和剤	2,000倍	◎	○	○	(○)	(○)	◎
ハチハチフロアブル	2,000倍				○			
ウララDF	2,000倍				◎			
サムコルフロアブル10	5,000倍	○	○	◎				
ディアナWDG	1万倍	○	○	◎				

もも

薬剤名	希釈倍数	対象害虫							注意事項	
		アブラムシ類	モモンクイガ	ナシヒメシクイ	カイガラムシ類	モモハモグリガ	ハマキムシ類	カメムシ類		
								残効(2)		
スミチオン水和剤40	1,000倍	○	○	○		○	○	○	-	ダコニール1000との混用はしない。
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	○	○	○	○	(○)	○	(○)	-	オマイト水和剤及びダコレックス水和剤との混用はしない。
サイアノックス水和剤	1,000倍	○	○	○	○	○	○	(○)	-	
スプラサイド水和剤	2,000倍		○	○	◎	◎		(○)	-	ダコニール1000との混用はしない。6月中旬は葉害が出やすいので使用しない。
ダズバンDF	3,000倍		○	○	○		○	(○)	-	
アドマイヤー水和剤	1,000倍	◎				◎		○	○	
モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	◎	○	○	○2,000倍	◎		○2,000倍	○	
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	◎3,000倍	○	○		◎		○	◎	
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	◎	○	○		◎		○	◎	
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	◎	○	○		◎		○	◎	
デミリン水和剤	3,000倍		○	○		◎				
チェス顆粒水和剤	5,000倍	○								
コテツフロアブル	2,000倍					◎		(○)		
ハチハチフロアブル	2,000倍	○	○1,000倍	○1,000倍		○				
合成ピレスロイド剤	スカウトフロアブル	3,000倍	○2,000倍	◎	○		◎			
	ロディー水和剤	1,000倍	○	◎	○		◎			
	アーデント水和剤	1,000倍	○	◎	○		◎		○	◎
フェニックスフロアブル	4,000倍		○	○		◎	◎			
サムコルフロアブル10	5,000倍		○	○		◎	◎			

おうとう

薬剤名	希釈倍数	対象害虫						注意事項		
		オウトウハマダラミバエ	カイガラムシ類	ハマキムシ類	ケムシ類	オウトウショウジョウバエ	カメムシ類			
							残効(2)			
ダイアジノン水和剤34	1,000倍	(○)	○	○	○		(○)	-		
スプラサイド水和剤	2,000倍	(○)	◎				○	-		
サイアノックス水和剤	1,000倍				◎		(○)	-		
ダントツ水溶剤	2,000倍						○	◎		
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍						○	○		
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍						○	○		
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍						○	○		
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍		○				○	○		
バリアード顆粒水和剤	4,000倍		○				○2,000倍			
バイオマックスDF	2,000倍			◎	◎					
ファイブスター顆粒水和剤	2,000倍			◎	◎1,000倍					
アタプロンSC	4,000倍			○	(○)					
ロムダンフロアブル	3,000倍			○	(○)					
マトリックフロアブル	2,000倍			○	(○)					
ファルコンフロアブル	6,000倍			○	(○)					
合成ピレスロイド剤	アディオンフロアブル	2,000倍	(○)				○	(○)	◎	
	スカウトフロアブル	3,000倍	(○)				○	(○)	◎	
	テルスターフロアブル	4,000倍	(○)				○	(○)	◎	
	アーデントフロアブル	2,000倍	(○)				○	(○)	◎	
フェニックスフロアブル	4,000倍			◎	◎					
サムコルフロアブル10	2,500倍			◎	◎		○			
アブロードフロアブル	1,500倍		○							

殺 ダ ニ 剤 の 登 録 一 覧 表

(2019年用)

JA全農山形 生産資材部

2018年12月1日 作成

薬 剤 名	ナミハダニ				リンゴハダニ				感受性の 低下実績	オウトウ ハダニ ※1	チャノ ホコリ ダニ ※1	サビダニ ※1	ホト-液 混用	希 釈 倍 数													特 性 お よ び 注 意 事 項					
	卵	幼虫	若虫	成虫	卵	幼虫	若虫	成虫						りんご	おうとう	も も	ぶどう	なし	きゅうり	トマト	な す	すいか	いちご	メロン	かき	菊 (花き)		食用 ぎく	ばら			
ダニサラバフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	×	×	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	<ul style="list-style-type: none"> ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果がある。 天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 アリエティック水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラバフロアブルを先に溶かす。 スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラバフロアブルは使用しない。 他に小粒核果類、ピーマン、花き類・観葉植物等に登録あり。 	
スターマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	<ul style="list-style-type: none"> ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。 ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果があるのを避ける。 有機態の洋なしに使用する場合、果実の腐敗が自生つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。 ペフラン液剤、アリエティック水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。 有用昆虫（ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ）およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 他に小粒核果類、食用ほおずき、りんどう、ピーマン等に登録あり。 	
ダニコングフロアブル	○	○	○	△	○	○	○	○	無し	(○)	×	×	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	3,000	-	3,000	3,000	2,000	2,000	-	2,000	-	2,000	<ul style="list-style-type: none"> ハダニの全ての生育ステージに対して効果がある。 天敵その他有用動物に対して影響が少ない。 スターマイトフロアブル、スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニコングフロアブルは使用しない。 ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果があるのを避ける。 他に小粒核果類等に登録あり。 	
ダニゲッターフロアブル	○	○	△	○	○	△	○	△	無し	(○)	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が強く、有効性が長い。 速効的だが、成虫には不妊作用を示す。 ホルドー液との同時散布および前後14日以内の近接散布は効果があるのを避ける。 新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項に注意する。 (1) 豊水、新高、長十郎には新葉に薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 (2) 有機リン剤との同時散布および10日以内の近接散布は新葉に薬害を生じる恐れがあるので避ける。 おうとうに使用する場合は、新梢伸長期に薬害を生じることがあるので、葉の硬化を持って使用する。 キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ほらに対して薬害を生ずる恐れがあるので、付近にある場合からないように注意すること。 開花期の水稲に本剤がかかった場合、不稔などの薬害を生じる場合があるのでからないように注意する。 小粒核果類等に登録あり。
ハロックフロアブル	○	○	×	○	○	○	○	×	有り (ワタゲ)	(○)	×	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	-	2,000	-	2,000	<ul style="list-style-type: none"> 成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く強い効果がある。 ホルドー液散布14日前まで使用し、ホルドー液散布後は使用しない。 すもも、花き類・観葉植物にも登録あり。 	
マイトコーネフロアブル	○	○	△	○	○	○	○	○	有り	(○)	×	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ミツバチ・害虫およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。 ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、食用ほおずきにも登録あり。 	
コロマイト水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	無し	(○)	○	○	○	2,000	-	-	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	-	2,000	<ul style="list-style-type: none"> 害に長期毒性があるので、農薬にかからないように注意すること。 乳剤は、薬害防止のため安全性が確認された薬剤のみ混用する。 乳剤は、汎用性農薬以外および葉面散布肥料とは混用しない。 乳剤はミニトマト・ミニトマトのワタゲミダシ、ハモグリバエ等で登録あり。 乳剤は小粒核果類、ミニトマト、食用ほおずきにも登録あり。 	
コロマイト乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	無し	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,500	1,500	1,000	1,000	-	1,500	-	-	-	-	-		
コテツフロアブル	○	○	×	×	○	○	○	×	無し	(○)	○	○	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	2,000	<ul style="list-style-type: none"> ぶどうは収穫60日前までの使用なので注意する。 薬害性があるので、農園周辺では飛散しないように注意する。 ハクサイ・ダイコン・きゅうり・なすの幼虫期は薬害の恐れがあるので使用不可。 オクラではオオタバコガで登録あり。 スイカではミナミキアザミウマにも登録あり。 小粒核果類、ミニトマト、ピーマン、花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)にも登録あり。 	
ビラニカEW	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	-	1,000	1,000	-	-	2,000	-	2,000	2,000	2,000	2,000	-	1,000	-	2,000	-	2,000	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) サンマイト・ダニロンは交差抵抗を示すので混用は避ける。 EWは花き類・観葉植物(ハネツグ、きくを除く)に登録あり。 	
ビラニカ水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-	-	-	-	-	2,000	-	-	-	-	-		
サンマイト水和剤	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	-	-	-	-	-	1,000	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) ダニロン・ビラニカは交差抵抗を示すので混用は避ける。 フロアブル剤は、えだまめ、食用ほおずきのコナジラミ類に登録あり。 水和剤はすもも、キウイフルーツに登録あり。 	
サンマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	-	-	-	-	-	1,000	-	-	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	-		
ダニロンフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	○	有り	(○)	○	○	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	-	<ul style="list-style-type: none"> 原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い) サンマイト・ビラニカは交差抵抗を示すので混用は避ける。 キウイフルーツ、うめ、ミニトマト、ほうれんそう、ピーマン、花き類・観葉植物にも登録あり。 	
カネマイトフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	×	無し	(○)	○	○	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	1,000	1,000	-	1,000	1,000	-	1,000	-	<ul style="list-style-type: none"> アリエティックと混用する場合は、カネマイトを先に希釈して使用する。 ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。 うめ、すもも、うり類(漬物用)、ピーマンにも登録あり。 	

※1: () 内に表示されている記載については、各県ならびに本会農業研究部の試験結果ならびにメーカーの情報を参考に東本独自で評価した内容となっています。
 ※本資料作成以降に農薬の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。なお、記載している希釈倍数については、登録濃度の高い希釈倍数のみを記載しています。
 ※各薬剤共、ホルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようなので留意願います。
 ※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤共、年1回に厳守願います。

除草剤使用基準

	除草剤名	適用樹種	使用時期	適用雑草名	使用量 (10a当たり)		効果の 発現	効果の 持続期間	主な特性と注意点
					薬量 (CC)	希釈水量			
グル ホシ ネー ト	バスタ液剤	りんご	収穫21日 前まで	畑地一年生 雑草	300~500	100~150 ℓ	2~5 日後	40~60 日間	<ol style="list-style-type: none"> 一年生及び多年生のイネ科・広葉雑草に効果が大きい。 スギナにも効果がある。オオバコ、ギンギシは効果が劣る。 雑草生育期：草丈30センチ以下で散布する。 グルホシネードを含む農薬の総使用回数 3回以内
		ぶどう、なし、おう とう、かき、もも、 うめ、ネクタリン、 ブルーベリー	収穫前日 まで	畑地多年生 雑草	500~ 1,000				
	ザクサ液剤	りんご キウイフルーツ	収穫21日 前まで	一年生雑草	300~500 ml	100~150 ℓ	2~3 日後	30~60 日間	
		くり	収穫30日 前まで	多年生雑草	500~ 1,000ml				
グリ ホサ ー ト	ラウンドアップ マックスロード	果樹類	収穫7日前 まで(雑草 生育期)	一年生雑草	200~500	通常散布 50~100ℓ 少量散布 25~50ℓ	2~7 日後	60~70 日	<ol style="list-style-type: none"> ギンギシ、ヨモギ、タンポポ、チガヤなど多年生宿根雑草に 効果が高い。1年生雑草にも効果が高い。雑草の種類により薬 量を変える。スギナには効果が劣る。 ラウンドアップ専用ノズルを使用し他作物などに飛散しな いように注意する。むらのないように散布する。 展着剤は加用しない。 泥などで濁った水を用いると、成分が吸着され効果が低 下することがあるので本剤の調製には用いないこと。 雑草の生育最盛期に散布する。 多年生雑草が局部的に発生している場合はスポット処理する。 効果の発現が遅いので処理後7~10日間は刈り払ったり耕起 したりしない。 秋処理(11月中下旬)は翌春の除草効果が高い。 グリホサートを含む農薬の総使用回数 3回以内
				多年生雑草	500~ 1,000				
				スギナ	1,500~ 2,000				
				マルバツユ クサ	500~ 1,500				
草枯らしMIC	果樹類 (かんきつ、パイナップルを除く)	収穫7日前 まで(雑草 生育期:草 丈30cm以 下)	一年生雑草	250~500	通常散布 50~100ℓ 少量散布 25~50ℓ				
			多年生雑草	500~ 1,000					

植物生長調節剤の使用法

対象作物	薬 剤 名	使用目的	使用回数	使 用 時 期	使用倍数	注 意 事 項
お う と う	CX-10	発芽促進	1 回	休眠期（落葉後12月～1月）	10～30倍	10a当たり300～400ℓ散布する。佐藤錦に散布すると2～3日開花が早まる。ただし、樹勢の弱い樹には散布しない。
	ヒットα10				10～20倍	
	サンキャッチ液剤30S	着色促進・糖度向上	2回以内	1回目……収穫開始14日前（着色始期） 1回目……収穫開始7日前（初回散布7日後）	300～600倍 300～600倍	
り ん ご	ストップール液剤	収穫前落果防止	2回以内	収穫開始予定日の25～7日前（但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	1,000～1,500倍	
	ヒオモン水溶剤	収穫前落果防止	2回以内	収穫開始予定日の21～4日前（但し、2回散布の場合は10日程度間隔をあける）	1,000～2,000倍	熟期促進効果はないが早ぎき。高温時や樹勢が弱い樹には散布しない。
	石灰硫黄合剤	摘花	2回以内	側花の摘花：中心の満開から2～3日後 えぎ花の摘花：えぎ花の70～80%開花時	100～120倍	高温時の散布で薬害が出やすいので朝・夕の気温が低い時に散布する。
	エコルーキー	摘花	2回以内	満開日（頂芽満開日で側花が7～8割開花した時期）に散布する。追加散布を要する場合は1回目散布2～3日後に、100～150倍、単用で散布する。	100～150倍	柱頭に付着するように散布する。SSではファンを止めるか低風圧で散布する。
ぶ ど う	マイクロデナボン水和剤85	摘果	2回以内	満開後1～4週間頃 （目通りの中心果の横径） ふじ 7mm前後 王林 約12mm 千秋 約11～12mm 紅玉 約14mm	1,200倍	つがる、デリシャス系品種は過剰摘果になりやすい。紅玉、ジョナゴールドは特に過剰摘果になる。ふじ、千秋はやや落ちにくい。
	CX-10（シアナミド）	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	1 回	収穫後発芽前 結果母枝に散布	10～20倍	
	ヒットα10（シアナミド）		2回以内	収穫後発芽前 結果母枝への散布	10～20倍	
	アグレプト液剤（ストレプトマイシン）	無種子化	1 回	満開予定日の14日前～開花始期 散布又は花房浸漬 満開予定日の14日前～満開期 花房浸漬（第1回ジベレリン処理と併用）	1,000倍（200ppm）	
	フラスター液剤（メピコートクロリド）	新梢伸長抑制	1 回	新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで）	1,500～2,000倍 800～1,000倍	1. 極端に樹勢の強い樹では摘心と併用する。 2. 通年施用で樹勢が衰える場合があるので注意する。
ぶ ど う デラウェア	ジベレリン	無種子化 果粒肥大促進	2 回	満開予定日約14日前（第1回目） 花房浸漬 満開約10日後（第2回目） 果房浸漬（100ppm） 又は果房散布（75～100ppm）	100ppm 75～100ppm	1. ジベレリン単用処理時の処理体系である。 2. 使用回数2回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
	ビーエー液剤（ベンジルアミノプリン）	無種子化処理の第1回ジベレリン処理時期の早期への拡大	1 回	満開予定日の17～14日前 ジベレリン第1回目処理液に添加して果房を浸漬処理	300倍	1. 露地栽培でのジベレリン第1回目処理液に加用する処理体系である。 2. 第1回目のジベレリン単用での処理適期より約3～4日早く処理することができる。
	フルメット液剤（ホルクロールフェニロン）	ジベレリン処理適期幅拡大	1 回	満開予定日18～14日前（ジベレリン第1回目処理日） ジベレリン100ppm液に加用、花房浸漬（満開約10日後のジベレリン第2回目処理は慣行）	1～5ppm	1. ジベレリン第1回目処理液又は、ジベレリン第2回目処理液に加用する処理体系である。
	フルメット液剤（ホルクロールフェニロン）	果粒肥大促進	1 回	満開約10日後（ジベレリン第2回目処理日） ジベレリン100ppm液に加用、果房浸漬（満開約14日前のジベレリン第1回目処理は慣行） 満開約10日後（ジベレリン第2回目処理日） ジベレリン75～100ppm液に加用、果房散布（満開約14日前のジベレリン第1回目処理は慣行）	3～5ppm 3～10ppm	2. 着果過多による裂果、果実の着色遅れ、糖度低下など品質に悪い影響を及ぼす恐れがあるので、着果量の調整など必要な措置を十分講じる。 3. 異常な高温・乾燥が続くときは使用しない。 4. 使用回数1回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計2回以内
ぶ ど う （シャインマスカット） 〔無核栽培〕	フラスター液剤（メピコートクロリド）	新梢伸長抑制	2 回	新梢展開葉7～11枚時（開花始期まで） 散布	1,000～2,000倍	樹勢が弱い場合は使用しない
	ジベレリン	無種子化 果粒肥大促進	2 回	満開時～満開3日後（第1回目） 花房浸漬 満開10～15日後（第2回目） 果房浸漬	25ppm	使用回数2回、但し、降雨等により再処理を行う場合は合計4回以内
	フルメット液剤（ホルクロールフェニロン）	着粒安定	1 回	満開時～満開3日後（ジベレリン第1回目処理日） 満開時～満開3日後に使用するジベレリンに加用、花房浸漬（ジベレリン第2回目処理は慣行）	2～5ppm	1. ジベレリン第2回目処理時に本剤を使用すると縮果症が増える場合があるので注意する。
		果粒肥大促進	1 回	満開10～15日後（ジベレリン第2回目処理日） ジベレリンに加用、果房浸漬（ジベレリン第1回目処理は慣行）	5～10ppm	2. 使用回数各1回、但し、降雨等により再処理を行う場合は2回以内とし、総使用回数5回以内
	花穂発育促進	1 回	展葉6～8枚時 花房散布	1～2ppm		

農協防除農薬採用品目の樹種別農薬登録早見表

Table with columns for Pesticide Name, Crop Type (e.g., Peach, Apple, Pear, etc.), and Registration Details (Application Period, Number of Applications, etc.).

※ぶどうではぶどう全体に適用される「ぶどう」と「大粒ぶどう」「小粒ぶどう」などと適用作物が異なる場合があるので注意する。 ※なしでも日本なしと西洋なしに区別されていることがあるので注意する。 ※ももとネクターは別の作物として扱われるので注意する。 ※収穫前日数に十分注意して散布する。 ※東根市農協果樹防除基準に記載されている農薬を載せた。 ※使用時期や有効成分によって、使用回数異なる場合は総使用回数欄を()で示した。 ●は登録があることを示す。(空欄は登録がない) - は使用時期または使用回数に制限がないことを示す。

ウララ[®]_{DF}

 石原バイオサイエンス株式会社

サムコイル[®]フロアブル10

 三井化学アグロ株式会社


日産
トランスフォーム[™]フロアブル

 日産化学株式会社

各種害虫にバシッと効く
ダントツ水溶剤

 協友アグリ株式会社

アグロスリコ[®]水和剤

和の国、農の力。
 住友化学
住友化学株式会社

ダニゲッター[®]フロアブル

バイエル クロップサイエンス株式会社

ダニコンゴ[®]
フロアブル

 日本農薬株式会社

スコア[®]顆粒水和剤

syngenta
シンジェンタ ジャパン株式会社

りんご生育後期の総合病害防除
兼商
ストライド[®]顆粒水和剤

 アグロ カネショウ株式会社

ナリア[®]WDG

BASFジャパン株式会社

ファンタジスタ[®]
顆粒水和剤

 日本曹達株式会社